

福島県教育庁文化財課

福島県の取組

—東日本大震災による福島県内の史跡の被害とその現状並びに
文化財レスキューを中心に—

【被災した国史跡の現状】

2011年3月11日に東北地方太平洋岸を襲った東日本大震災では、太平洋沿岸部のみならず、内陸部においても多くの貴重な文化財が被害を受けた。福島県教育委員会の調査では国宝・国指定重要文化財・県指定重要文化財の501件（震災当時）のうち、148件が何らかの形で被災している。特に被害が多かったのは建造物で37件、続いて史跡（史跡及び名勝も含む）35件である。今回は特に被災した国史跡の当時の状況と現在の復旧状況について説明したい。

福島県の国史跡（史跡及び名勝も含む）は47件だが、そのうち20件が被災した。史跡の主な被害としては、石垣の崩落・孕み、石碑・石燈籠の倒壊、指定地内の園路・法面のひび割れなどである。また、津波浸水地域では史跡指定地内に瓦礫が散乱する状況となった。

き損届が提出され、軽微なもの・史跡に直接関わらないものを除く被害が大きかった国史跡の災害復旧事業は平成23年度から実施されており、少しずつではあるが、元の姿を取り戻しつつある。

平成25年度も引き続き災害復旧事業は実施されているが、今回はすでに修復を終えた郡山市大安場古墳と近々で修復を終える二本松市二本松城跡の状況について報告する。

大安場古墳は平成21年度に史跡公園として整備が完了したが、今回の震災では1号墳（前方後方墳）の墳頂部・法面に亀裂が生じた。郡山市では平成23年度から事業を開始していたが、設計後の工事入札では3回入札不調に見舞われ、平成24年度末に4回目ようやく落札され、平成25年度に工事着手、そして7月末に修復を完了している。平成25年8月からは一般公開を再開している。

二本松城跡は本丸石垣と箕輪門傍らの石垣に大きな孕みが生じた。平成24年度に本丸の石垣修復を完了し、平成25年度からは箕輪門傍らの石垣3面の修復を行なっている。10月時点では全ての面で天端石まで積み上げが完了し、細部の調整後、天端部分の仕上げを行い、修復を完了する予定である。なお、石垣修復の様子に多くの観光客が足を止め、文化財への理解を深めている。

福島県内の史跡としては今後、白河市小峰城跡が多くの時間・費用を修復に要するが、白河市では平成27年度に前面の石垣修復を完了し、市民が入場できる事を目指している。また、平成28年度には全面の修復を終える予定である。

【文化財レスキュー】

今年度も警戒区域内・旧警戒区域の市町村所在資料館からの文化財レスキューを継続している。今年度からは福島県被災文化財等救援本部の事務局を福島県文化財課・県立博物館・県立美術館に置き、独立行政法人国立文化財機構の指導助言・人材派遣・資材供給を得ながら、事業を進めている。

現在、双葉町立歴史民俗資料館の資料を中心に搬出を行っている（7月11日、10月30日、10月31日）。また、資料館の資料以外にも浪江地区の額装された絵図、富岡町内に取り残された仏像、南相馬市小高区の神社所蔵の資料等の救出も実施した。